

2013年7月10日・しんぶん赤旗「朝の風」欄では

## 詩人は炭坑のカナリアであれ

深く考えたことからは、政府の改憲政策も含まれる。詩人は炭坑のカナリアであれ。SF小説の使命を語ったカート・ヴォネガットに由来するこの名言を思い出したのは、畑中暁来雄詩集『資本主義万歳』の「あとがき」にあったからだ。

畑中詩集は表題が暗示するようにアイロニーが基調である。表題作は資本主義のおかげで労働者は自動車に乗れるが、睡眠時間が3時間、残業代が払われず、非正規雇用・失業者になり、統合失調症にもなる、と皮肉る。

保守派は過去の戦争を美化するが、畑中氏は改憲・軍事化路線に反対し、他民族虐殺のイメージを描く。自国の犯罪をごまかすところから平和は生まれない。〈「記念写真を撮るから集まれ」と／村民をだまして一カ所へ集め／四方から機関銃の一斉射撃（略）静まりかえった死人の山を／日本兵が銃剣を突き刺して歩く／「殺しもれ」はないか／冷酷に観察しながら〉（平頂山殉難同胞遺骨館）（槐）

と紹介されています。